



Kasama city
Earthquake Hazard map

笠間市 地震ハザードマップ



平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災や、平成16年10月の新潟県中越地震、近年では平成19年3月の能登半島地震、平成19年7月の新潟県中越沖地震など、大地震が頻発しています。また、笠間市においても茨城県南部地震など、大地震発生の可能性が指摘されており、ひとたび地震が発生すると被害は大きくなるものと予測されています。

この地震ハザードマップは、地震が発生したときの震度予測や避難所などの必要な情報を記載したものです。日頃から地震に対する認識を深め、備えていただくことにより、災害時の被害を最小限にすることを目的として作成しました。

お問い合わせ 笠間市役所 都市計画課 〒309-1792 茨城県笠間市中央三丁目2番1号
電話番号：友部・笠間地区内からは 0296-77-1101 または 0296-72-1111
岩間地区内からは 0299-37-6611
FAX番号：0296-77-1324 H22.3月発行

いざという時に知っておきたい

災害用伝言ダイヤル 171

利用方法

- 一般加入電話、公衆電話、携帯電話、PHS（一部の事業者を除く）から利用できます。
- 「171」をダイヤルし、音声案内に従って伝言の録音・再生を行ってください。
- 録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っている方が聞くことができます。

安否情報の確認

- 災害時、緊急でない電話はなるべく控えましょう。
- 公衆電話は、比較的つながりやすいので、近所の公衆電話の場所を確認しておきましょう。
- 被災地にかけるより、遠隔地にかけた方がつながりやすいため、遠隔地の親戚に各自が連絡を入れ、情報を集約してもらうことも有効です。

火災・救急車	(局番なし) 119	警察への急報	(局番なし) 110
笠間市消防本部	(0296) 73-0119	公立の医療機関	
笠間消防署	(0296) 73-0119	茨城県立中央病院	(0296) 77-1121
友部消防署	(0296) 78-0119	茨城県立友部病院	(0296) 77-1151
岩間消防署	(0299) 45-0119	笠間市立病院	(0296) 77-0034
笠間警察署	(0296) 73-0110	NTT(故障係)	
東京電力(株) 茨城カスタマーセンター	☎(0120) 995-332	(局番なし) 113	☎(0120) 444-113

※119番通報するときは、あわてず落ち着いて、急病なのか、事故なのかをはっきり伝えましょう。

非常時持ち出し品チェック

事前に確認しましょう。準備がでたら□にチェック

- | | | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|
| ☐ 懐中電灯と予備電池 | ☐ ローソク・マッチ | ☐ 救急箱やくすり | ☐ 小児に必要なもの | ☐ 火や水の要らない食料(3日分) | ☐ 市販の飲料水(3日分) |
| ☐ 現金・貴重品・パスポート | ☐ 携帯ラジオと予備電池 | ☐ ヘルメット | ☐ タオル | ☐ 下着・くつ下 | |

せっかく揃えた持ち出し品も定期的に点検しないと使用できない場合がありますので半年に一度ぐらいは点検しましょう。

想定地震の震源について

笠間市に関わる地震として、「茨城県南部地震」、「関東平野北西縁断層帯地震」、また笠間市「直下地震」が発生した場合の3つの地震を想定し、ゆれやすさマップを作成しました。

想定地震とは

政府の中央防災会議では、日本全国どこでもマグニチュード6.9レベルの地震が起こってもおかしくないという考え方をしています。笠間市直下で発生する地震は、こうした考え方に基づくシミュレーションとして想定するものです。

※あくまでも想定であり、現状では茨城県内に確実な活断層は確認されていません。

想定地震の震源域



直下地震で発生するマグニチュード6.9の地震を想定した場合

■笠間市役所の直下を震源とするマグニチュード6.9の「直下地震」

直下地震とは、対象地域の直下の活断層を震源とするM6.9、震源の深さ5.0kmの地震を想定するものです。ここでは、市役所直下に活断層を仮定するものとします。

右に大きく掲載しています。

海溝型地震で発生するマグニチュード7.3の地震を想定した場合

■「茨城県南部地震」

フィリピン海プレートと北米プレートとの境界の地震として「茨城県地震被害想定調査報告(第二次)」においても、茨城県南西部に最も影響が大きい地震として、この「茨城県南部地震」を想定しています。



活断層で発生するマグニチュード7.2の地震を想定した場合

■「関東平野北西縁断層帯地震」

中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」の「地震ワーキンググループ報告書(平成16年11月17日)」において挙げられた断層帯の中で笠間市に最も大きな影響を与えられられるものとして、「関東平野北西縁断層帯」を採用しています。



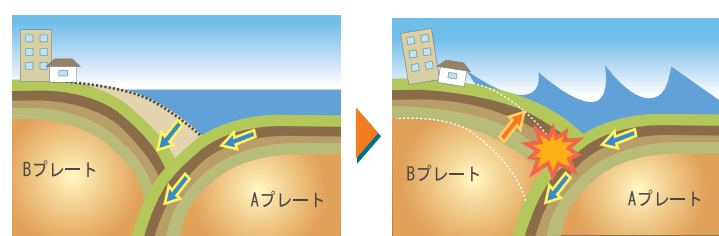
地震の起こるしくみを理解しましょう

地震の起こるしくみ

地震の起こり方は、「海溝型(プレート境界型)地震」と「活断層地震」の大きく二つに分けることができます。

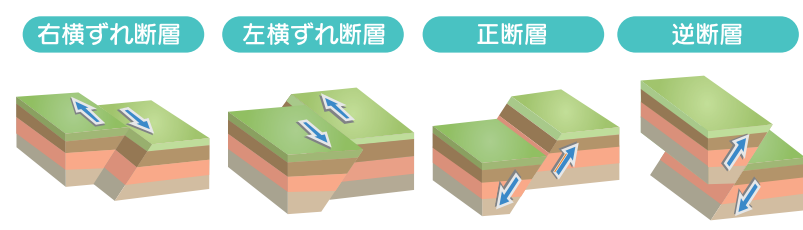
① 海溝型(プレート境界型)地震 (関東大震災、十勝沖地震、三陸沖地震など)

海側のAプレートが陸側のBプレートの下に溜り込むことで、境界にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにプレートがもどに戻ろうとしてはね上がり、地震が起こります。



② 活断層地震 (阪神・淡路大震災、新潟県中越沖地震など)

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、内部にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときに、ある面(断层面)を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。



緊急地震速報は、地震の発生直後に震源に近い地震計でとらえた観測データを解析して、震源や地震の規模(マグニチュード)を直ちに推定し、これに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を推定し、可能な限りテレビ、ラジオや携帯電話などで素早く知らせる情報です。

緊急地震速報の活用

「緊急地震速報」を見聞きた際に、適切な行動ができるよう、事前に訓練しておきましょう。



マグニチュードと震度の違い

マグニチュード

地震が発生するエネルギーの大きさを表した指標値です。

震度

ある地点における地震の揺れの程度を表した指標値です。

マグニチュードが大きな地震でも、その地震が遠くで起こったものであれば、震度は小さなものになります。反対にマグニチュードが小さくても、その地震を震源の近くで感じれば、震度は大きくなります。

ゆれやすさマップ

笠間市役所の直下を震源とする「直下地震」を想定した場合



地震の震度予測結果 (計測震度)

震度	人の状況
4	かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。
5弱	多くの人が身の安全を図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。
5強	非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。
6弱	立っていることが困難になる。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。

出典:「震度階級関連解説表」(気象庁)

※あくまでも想定される地震の強さ(揺れ)を示したものであり、実際に地震が発生した場合の揺れとは違いがあります。

ゆれやすさマップについて

ゆれやすさマップとは、笠間市で想定される地震が発生したときに、市内でどのくらいの揺れの強さ(震度)になるのかを、50mメッシュ(50mx50mの網目)ごとに計算し、それぞれの地域で生じる最大の揺れを予測し表したものです。

このマップでは、ご自宅の周辺がどの程度の揺れが起こりうるのかを知っていただき、建築物の耐震化を促進するなど、地震に対する日頃からの備えを心がけていただくことを目指しています。

